

知的障害児における適切な学習姿勢とは

—姿勢の違いによるタイピング文字数の変化を通して—

キーワード：学習姿勢、知的障害児、タイピング

研究目的

・姿勢がタイピングのパフォーマンスに与える影響を測定する。

研究方法

1. 対象

高等部生徒7名（男子5名、女子2名）

2. 倫理的配慮

本研究は大阪教育大学倫理委員会において倫理審査（受付番号23109）の承認を受け、保護者・本人の同意を得て実施

3. 手順

- ・10分間×3回のタイピングを3つの姿勢で順番に実施。
- ・実施日は令和6年12月X日。
- ・生徒を無作為に3グループに分けた。

4. 実施課題

- ・「あ」～「ん」までのひらがな46文字を用いて乱数に並べ替え、毎回順番の異なる文字カードを作成。
- ・文字入力は一文字入力。
- ・入力した文字数を計測する。

5. 分析方法

- ・異なる姿勢でのタイピング文字数に有意な差がみられるか反復測定分散分析を行う。

課題1（10分）

バルーン座位
（立位）
（椅子座位）



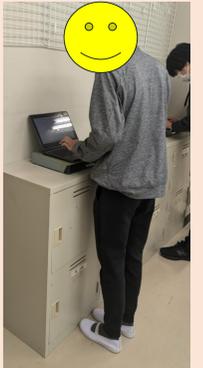
課題2（10分）

椅子座位
（バルーン座位）
（立位）



課題3（10分）

立位
（椅子座位）
（バルーン座位）



めちくせねそぬやまなむすつろみすへしにをよるからせろにりしふねのとまはのひゆめむすはふるいさらこねひそぬほをあくあたきとわおてもれぬわのみなみえたちかさけきたわしいれけよむてゆよてうるおこえにまひへつかこさやせきほはふつめあんううらみれもえおをやほくんゆりへいとそりなちんろけ

結果と考察

【結果】

姿勢を要因とした反復測定分散分析では、有意な差（ $F(6, 18) = 4.828, p < .05$ ）が認められた。多重比較の結果では、タイピング文字入力数の平均値は、椅子座位の平均値が立位の平均値より有意に多かった。

【考察】

- ・学習姿勢によって課題を遂行する力に違いがあり、学習活動を適切な姿勢で取り組む必要があると考えられる。知的障害児は身体発達に遅れがみられる場合が多く、姿勢保持の面で影響していることが考えられる。
- ・学習環境の設定については、学習課題を遂行する上で障壁となるような要因を取り除くことで、高いパフォーマンスを示す可能性が高いことが考えられる。

課題	N	平均値	標準偏差	F値	p値
タイピング 課題1	7	192.286	69.992		
タイピング 課題2	7	197.000	74.543	0.994	0.399
タイピング 課題3	7	166.111	48.638		

タイピング	姿勢	N	平均値	標準偏差	F値	p値	多重比較:p値
	バルーン座位	7	199.429	59.2	4.828	0.029*	立位<椅子座位:0.047*
	立位	7	184.857	65.458			
	椅子座位	7	212.571	68.748			

* $p < .05$

反復測定分散分析, Bonferroniの補正による多重比較

